

ホストファミリーを体験してみませんか



地区青少年交換委員会

委員長 **植田 豊實**
(箕面中央RC)

国際ロータリーのプログラムの中でMost Wonderful Programといわれている青少年交換プログラムは、世界中のロータリークラブが相互に高校生を交換してわが子のように育てるプログラムであり、世界中で年間約7000人の高校生が交換されています。

交換期間は一年で、原則として三ないしは四家庭でホームステイをすることになっています。これは外国から来た高校生に出来るだけ様々な家庭を見させ経験させることが目的です。

十代後半の子供の大半は自分の家庭以外での生活経験がありません。ましてや外国で他人の家庭に入って生活することは大きなカルチャーショックです。

日本から外国に派遣されたある引っ込み思案な子供は、お腹が空いたと言わなければ食事を出してくれないことがわからず自室でホストマザーが食事と呼んでくれるのをひたすら待ち続け、一方ホストマザーは食事に来ないのはおなかが空いていないのだと思っていたという笑い話もあります。その家庭では食事は決ま

った時間にみんなで食べるのではなく各自が食べたいときに食堂に行って食べる習慣だったのです。もちろん同じ町で別な家庭にホームステイしたら今度は決められた時間に食事に来なければ食べさせてもらえないということもあるのです。

彼らはこのような経験を積み重ねて初めて、世界には自分の知らない生活習慣や文化や価値観や考え方があり、それが当たり前であること、そして違いがあることを認識したうえで受け入れ尊重することが、真に相手を理解することだということを学ぶのです。

特に人前で話すのが苦手な日本からの派遣学生は、自分の考えをはっきりとみんなに発表することの大切さや、自分を主張しないと仲間から馬鹿にされるどころか、信用されないということも学ぶのです。

ホストをする側にとっては子供を預かるのは大変です。特にホストマザーはご自分の子供だけでもずいぶん手が掛かるのに他人の子供それも外国人を預かるのですからなおさらです。

最初はおとなしくしていても慣れてくると部屋の片づけはしない、勉強は嫌い、部屋にこもってパソコンばかりしている、挙句に門限を守らないetc、と挙げればきりがありません。しかし考えてみてください。ご自分が高校生の時のことや、ご自分のご息のことを。親の言うとおりになる子どもなんているわけがありません。

ある時はやさしく、ある時は厳しく、あるときはほめてやり、ある時は叱りつけ、親として真剣に向き合って話し合えばその時は分かってくれなくてもそのうちにきっと理解してくれます。

うわべだけのお客さん扱いのホームステイプログラムもありますが、ロータリーの青少年交換は他のプログラムとはここが違うのです。学校に通って語学などの勉強をすることだけが目的ではなく、外国の家庭で、その家の子供になって生活することが目的なのです。

このような経験は交換学生のみならず、ホストをする側にとっても他では出来ない非常に貴重な体験になります。

当地区では、本年度からホストファミリーバンクを設立しました。

これは、ホームクラブが青少年交換プログラムに参加していなくても、ホストファミリーバンクに登録していただければホストを経験することができる制度です。

ロータリアンとしての奉仕活動の中で個人的に国際的な奉仕をする機会はありませんが、ホストファミリーバンクに登録すれば、一人のロータリアンとして、当地区に外国から派遣されてきた高校生を自分の子供として数か月間育てることで、世界的な青少年育成プログラムに参加できます。

また、同じような年頃のお子様をお持ちのご家庭であれば、お子様の語学の勉強にも大いに役立つでしょう。

ロータリアンご自身でなくても御親戚や友人知人で外国人の子供を預かってみたいと希望される方がいらっしゃれば登録は可能です。是非ご紹介ください。

連絡先：ガバナー事務所 今井事務局長
(TEL：06-6264-2660)